

学校施設長寿命化計画策定業務

【概要版】

平成 30 年 11 月

南 部 町

目 次

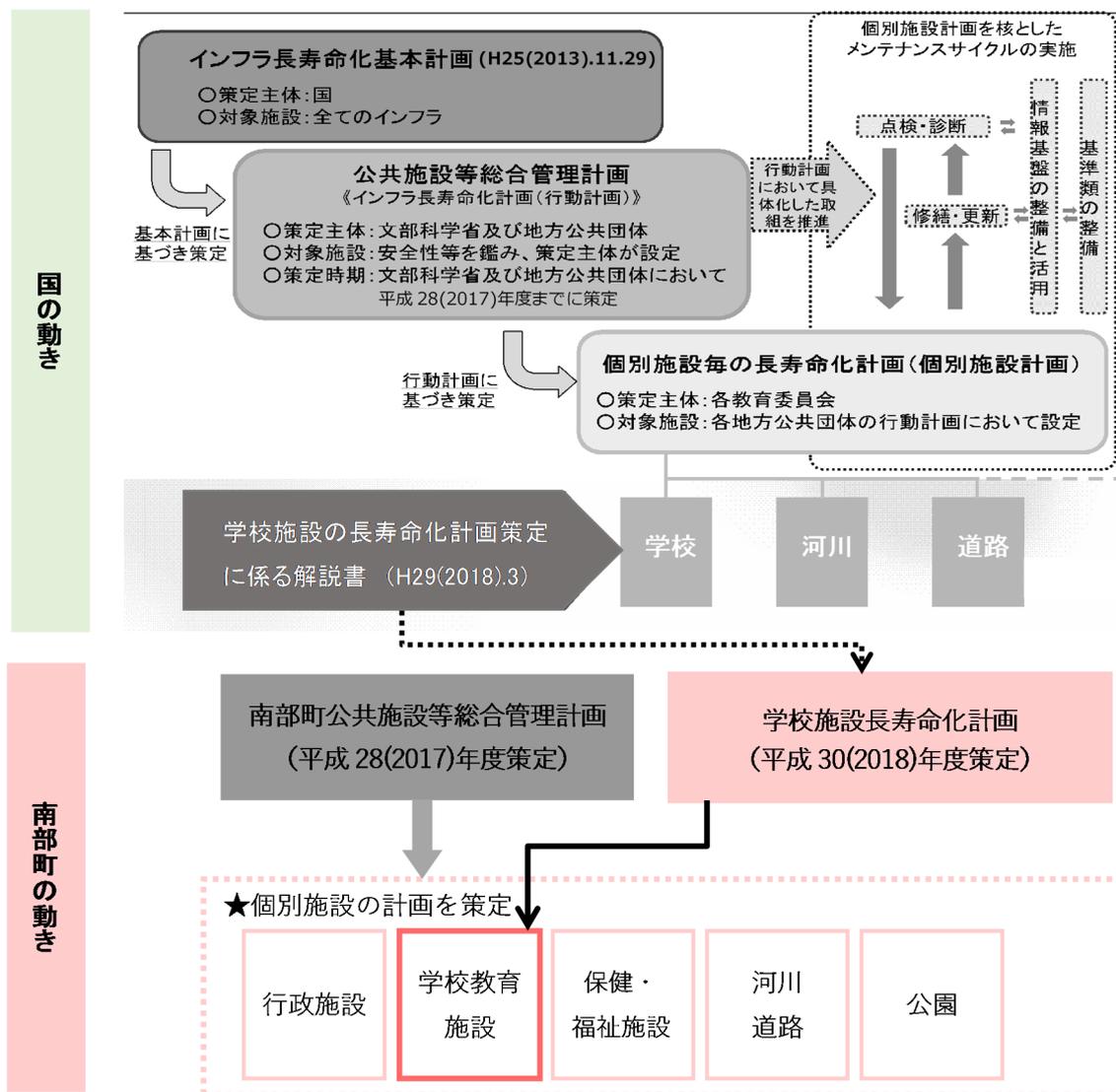
1 計画の目的と位置付け	1
2 計画期間	1
3 対象施設	2
4 生徒数の推計	3
5 学校施設の築年次別整備状況	4
6 躯体の劣化状況、長寿命化改修の可否の判定	5
7 躯体以外の劣化状況の判定	5
8 劣化状況調査結果	6
9 改修周期	7
10 学校施設の整備及び維持管理に関する基本方針	8
11 概算事業費及び整備スケジュール	9
12 長寿命化実施計画	10
13 学校施設の適正規模、適正配置における配慮事項	11

1 計画の目的と位置付け

本計画は、南部町の小学校 4 校及び中学校 1 校の適切なマネジメントを図り長寿命化及び改修等についての長期計画を策定するため、教育施設の状況を把握し、各施設の役割やあり方を考慮した上で、学校別の実施方針を定めること、及び富河・万沢小学校統合に伴う富河小学校の大規模改修工事基本計画の策定を目的とする。

検討にあたっては、施設の長寿命化など、施設の延命化に向けた取り組みを中心にまとめた。

今後は、南部町公共施設等総合管理計画の基本方針のもと、全体計画の事業費など財政状況を踏まえた検討を行い、同計画が求める個別計画へとつなげる。



2 計画期間

計画期間は、中期は 30 年間（平成 31 年度（2019 年）～2048 年、長期は 40 年間（平成 31 年度（2019 年）～2058 年とする。

3 対象施設

計画対象施設は、町内の小学校4校、中学校1校の全5校・24棟を対象とする。

【計画対象の小中学校】

No.	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性
				学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準
1	睦合小学校	教室棟	015	小学校	校舎	RC	3	2,859	1978	S53	40	旧
		倉庫(体育)	016	小学校	校舎	S	1	83	1978	S53	40	旧
		倉庫(野球)	018	小学校	校舎	W	1	31	1987	S62	31	新
		体育館	019	小学校	屋内運動場	S	1	867	2006	H18	12	新
2	栄小学校	プール関連	011	小学校	校舎	S	1	20	1965	S40	53	旧
		校舎	014	小学校	校舎	RC	3	2,687	1980	S55	38	旧
		倉庫(校舎横)	015	小学校	校舎	S	1	60	1980	S55	38	旧
		プール更衣室	016	小学校	校舎	W	1	32	1986	S61	32	新
		体育館	017	小学校	屋内運動場	S	1	797	1992	H04	26	新
		プール付属小屋	018	小学校	校舎	W	1	11	1992	H04	26	新
3	富河小学校	体育館	011	小学校	屋内運動場	S	2	781	1976	S51	42	旧
		校舎	013	小学校	校舎	RC	2	823	1984	S59	34	新
		校舎	014	小学校	校舎	RC	3	628	1984	S59	34	新
		校舎	015	小学校	校舎	RC	2	999	1984	S59	34	新
		倉庫	016	小学校	校舎	S	1	56	1984	S59	34	新
		倉庫	020	小学校	校舎	S	1	22	2005	H17	13	新
		倉庫	021	小学校	校舎	S	1	6	2014	H26	4	新
		プール付属小屋	022	小学校	校舎	S	1	64	1969	S44	49	旧
4	万沢小学校	体育館	005-1	小学校	屋内運動場	RC	1	601	1972	S47	46	旧
		体育館	005-2	小学校	屋内運動場	S	1	86	1972	S47	46	旧
		体育館	005-3	小学校	屋内運動場	S	1	35	1972	S47	46	旧
		体育館	005-4	小学校	屋内運動場	S	1	34	1972	S47	46	旧
		便所	006-1	小学校	屋内運動場	S	1	24	1972	S47	46	旧
		便所	006-2	小学校	屋内運動場	W	1	19	1993	H05	25	新
		倉庫	009	小学校	校舎	S	1	65	1992	H04	26	新
		校舎	010	小学校	校舎	RC	3	1779	1994	H06	24	新
		体育館付属	013	小学校	校舎	S	1	2	1994	H06	24	新
		倉庫	014	小学校	校舎	S	1	18	2011	H23	7	新
5	南部中学校	倉庫	002	中学校	校舎	S	1	38	1962	S37	56	旧
		部室	012	中学校	部室	W	1	39	1986	S62	32	新
		便所	015	中学校	校舎	S	1	8	1989	H01	29	新
		柔剣道場	016	中学校	屋内運動場	S	1	487	1987	S62	31	新
		校舎	017-1	中学校	校舎	RC	3	1612	2001	H13	17	新
		校舎	017-2	中学校	校舎	RC	2	1173	2001	H13	17	新
		校舎	017-3	中学校	校舎	RC	1	225	2001	H13	17	新
		校舎	017-4	中学校	校舎	RC	2	304	2001	H13	17	新
		校舎	017-5	中学校	校舎	RC	2	1281	2001	H13	17	新
		駐輪場	018	中学校	校舎	RC	1	253	2001	H13	17	新
		体育館	019	中学校	屋内運動場	S	1	949	2001	H13	17	新
		倉庫	020	中学校	屋内運動場	S	1	13	2003	H15	15	新
		倉庫	021	中学校	校舎	S	1	12	2014	H26	4	新
		倉庫	022	中学校	校舎	S	1	12	2014	H26	4	新

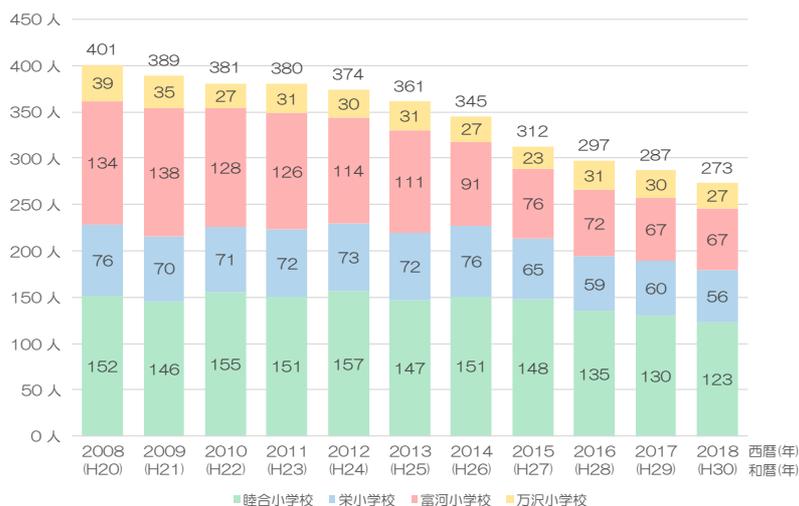
注) 表中の網掛け部分は、今回の調査対象から除くものである。

4 生徒数の推計

小学校は2008（平成20）年度以降、増減を繰り返しながらも減少傾向にある。2017（平成29）年度にかけて、睦合・栄・万沢の3校は減少率が20%前後に留まっているが、富河小学校は50%と著しい減少がみられる。

中学校は、2010（平成22）年度まで富河・万沢・南部の3校が設置されており、そのうち南部中学校のみ生徒数が100人を超えていた。その後、2011（平成23）年度に3校が統廃合され新南部中学校となって以降は、180～190人の間で推移している。

【小学校】



【中学校】



年度(和暦)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	H20～H30増減		
												人数(人)	率(%)	
小学校	睦合	152	146	155	151	157	147	151	148	135	130	123	-29	-19.1
	栄	76	70	71	72	73	72	76	65	59	60	56	-20	-26.3
	富河	134	138	128	126	114	111	91	76	72	67	67	-67	-50.0
	万沢	39	35	27	31	30	31	27	23	31	30	27	-12	-30.8
	合計	401	389	381	380	374	361	345	312	297	287	273	-128	-31.9
中学校	富河	67	63	66	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	万沢	40	37	32	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	南部	186	162	134	190	186	180	189	194	197	189	179	-11	-5.8
	合計	293	262	232	190	186	180	189	194	197	189	179	-11	-5.8

出典) 南部町学校施設台帳

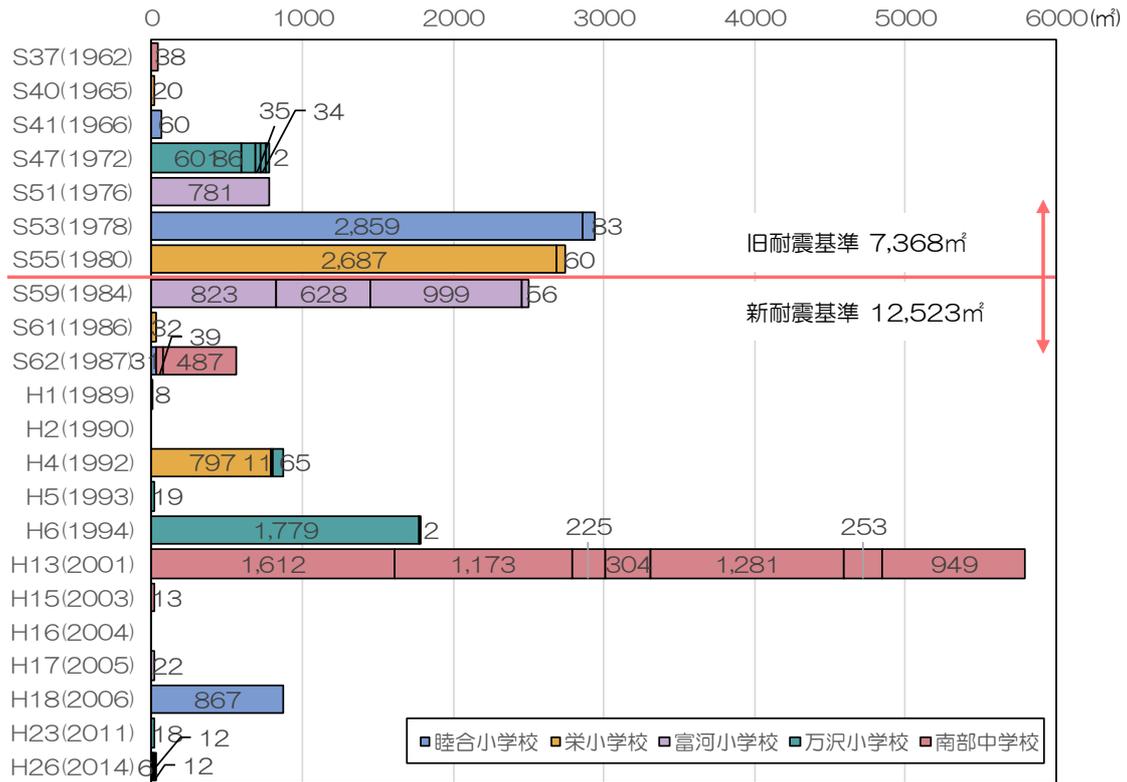
注) 2011(H23)年度に、富河・万沢・南部の3中学校が統廃合され、新南部中学校となった。そのため、中学校の生徒増減数・率は、2011(H23)～2018(H30)年度の新南部中学校について示している。

5 学校施設の築年次別整備状況

学校施設の延べ床面積は小学校 4 校で計 13,485 m²、中学校 1 校で 6,406 m²である。

各学校施設の建築年次別の整備状況を見ると、小学校 4 校は 1970～80 年代に集中して整備されているため、建築後 30～40 年以上経過し老朽化が進行している。

また、新耐震基準以降に建設された建物の延床面積は 12,523 m² (63.0%) と半数以上を占めるものの、旧耐震基準の建物の延床面積は 7,368 m² と 3 割以上あり、今後は耐震改修等の対応が必要となる。

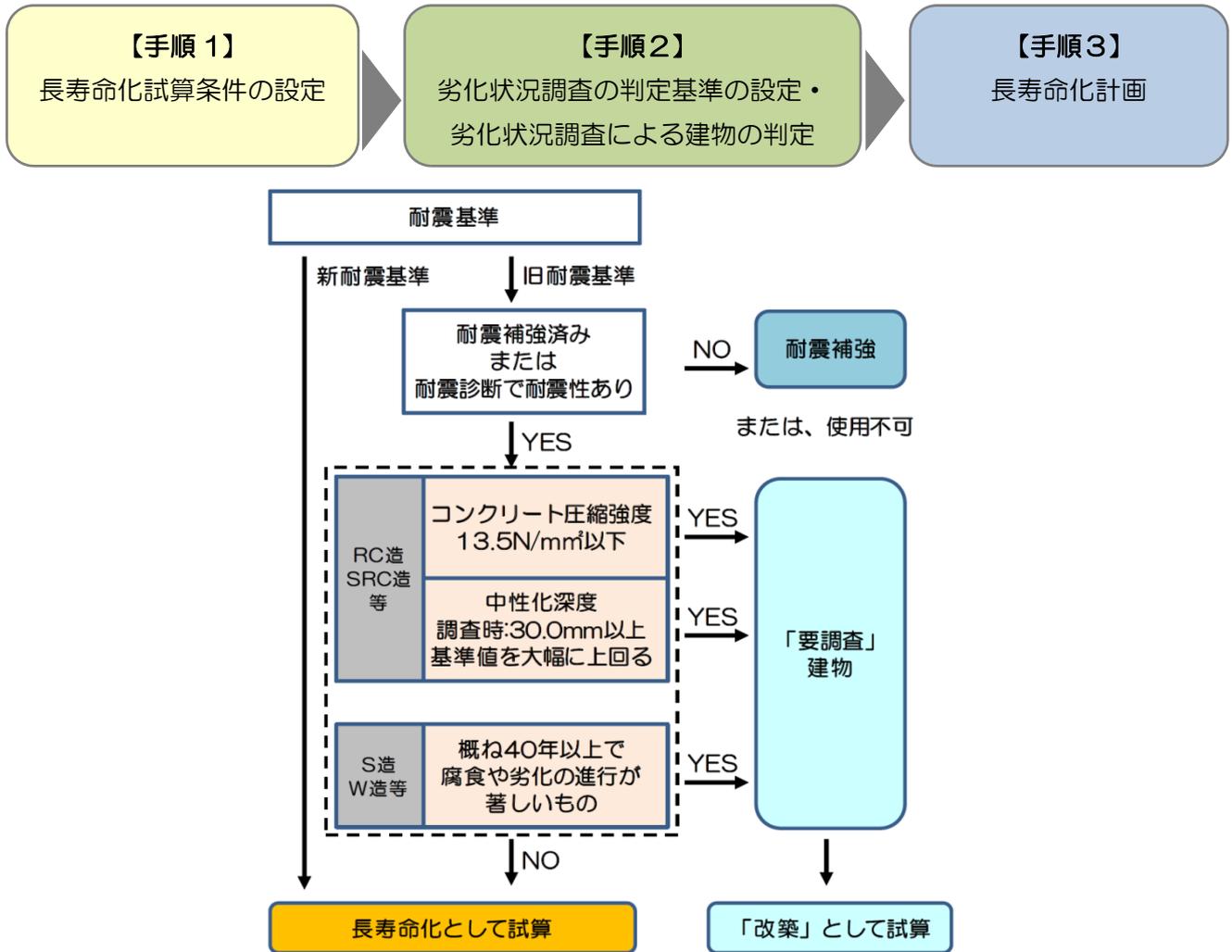


※注：校舎・屋内運動場・部室含む

【小中学校施設の年代別延べ床面積】

6 躯体の劣化状況、長寿命化改修の可否の判定

建築物の劣化状況調査や長寿命化の可否・優先度判定は、以下のフローにて行った。



【劣化調査と長寿命化可否の判定フロー】

7 躯体以外の劣化状況の判定

屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は各部位の改修年数からの経過年数を基本として、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（以下、「解説書」と記載）に準拠したA・B・C・Dの4段階で評価する。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価

【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

【優先度の判定基準】

8 劣化状況調査結果

各学校施設の劣化状況は次の通りである。

コンクリート圧縮強度試験や中性化試験の結果では、長寿命化改修に支障のある建物はな
いとの判定である。

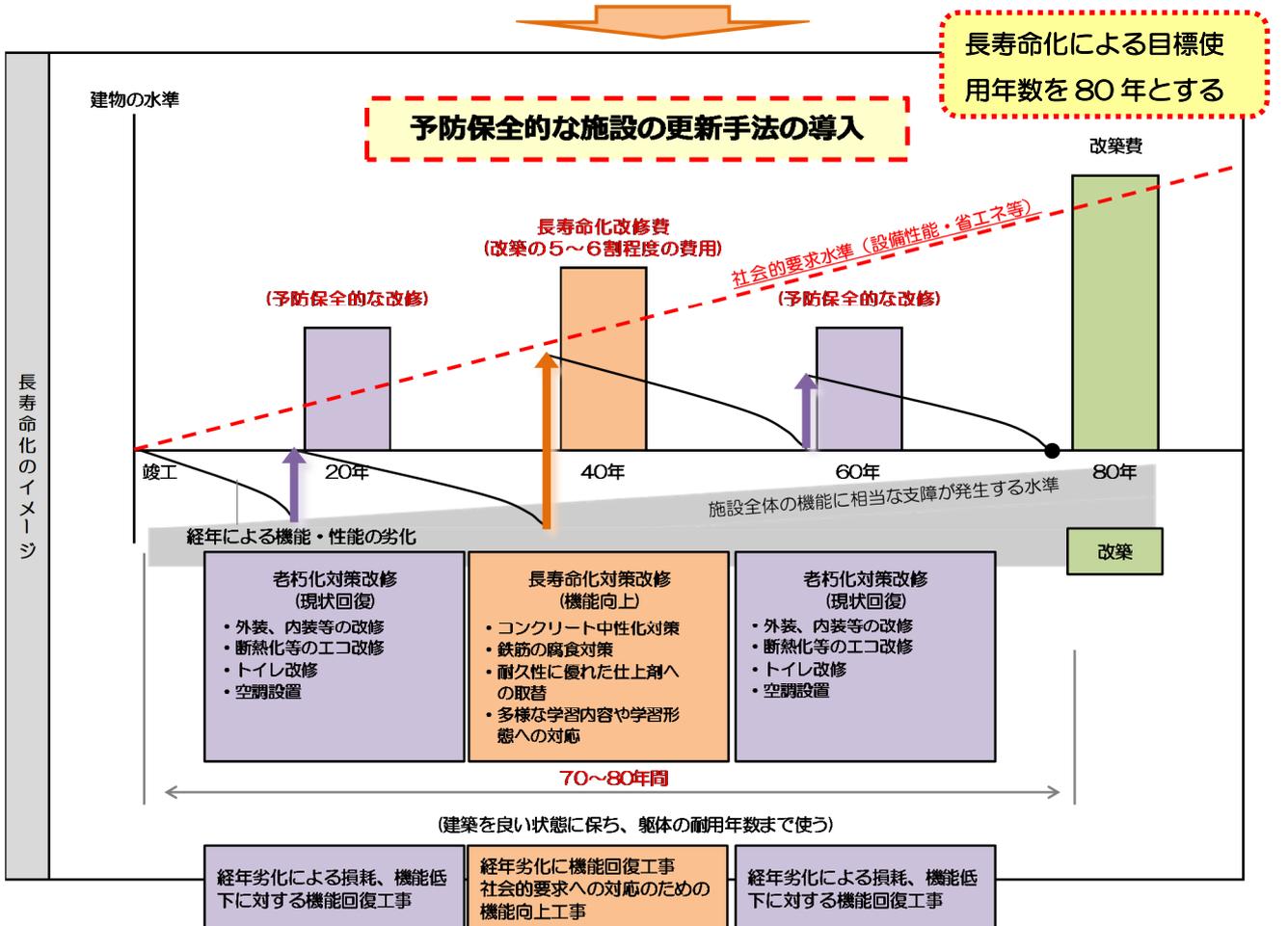
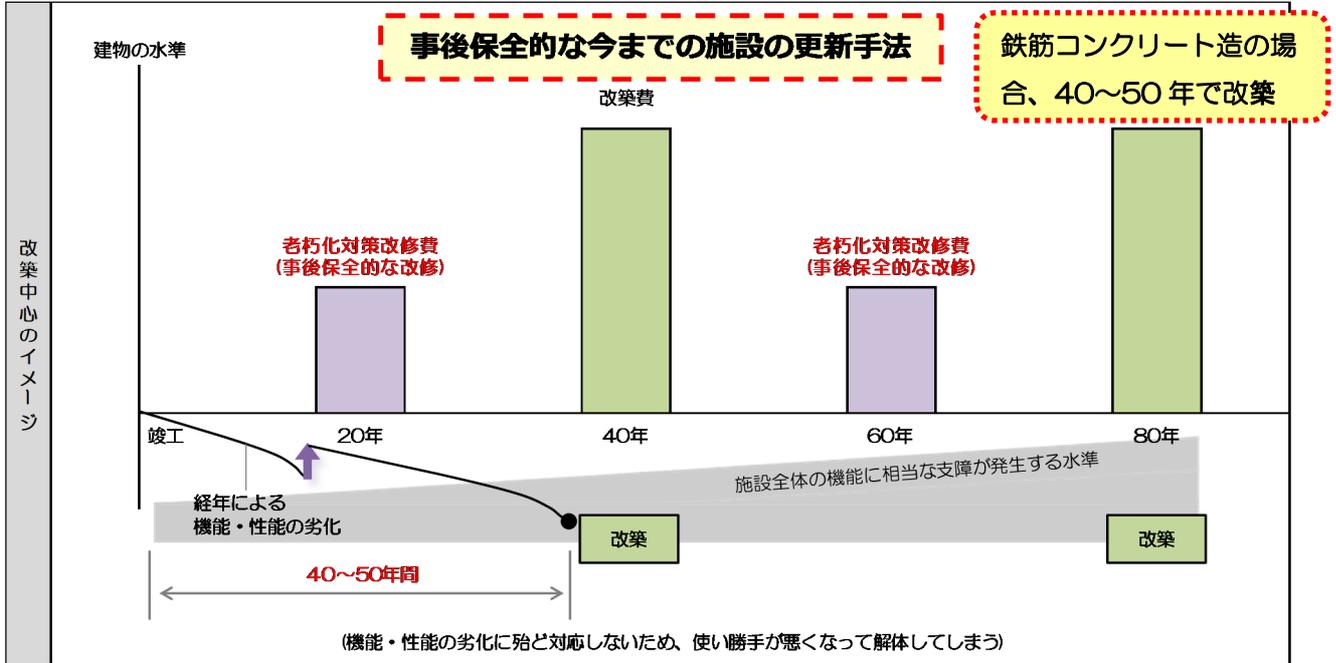
建築物情報一覧表

A: 概ね良好 B: 部分的に劣化 C: 広範囲に劣化 D: 早急に対応する必要がある

施設名	建物名	構造躯体の健全性						劣化状況評価					
		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上の区分						
睦合小学校	教室棟	旧	済	済	2018	26.6	長寿命	B	B	C	B	B	62
睦合小学校	体育館	新					長寿命	A	A	B	B	B	84
栄小学校	プール関連	旧					長寿命	C	B	A	B	B	81
栄小学校	校舎	旧			2018	41.8	長寿命	B	B	B	B	B	75
栄小学校	プール更衣室	新					長寿命	C	B	B	B	B	72
栄小学校	体育館	新					長寿命	B	B	C	B	B	62
富河小学校	体育館	旧	済	済			長寿命	A	B	A	B	B	87
富河小学校	校舎	新			2018	33.7	長寿命	B	C	B	B	B	65
富河小学校	校舎	新			2018	38.3	長寿命	C	B	B	B	B	72
富河小学校	校舎	新			2018	30	長寿命	B	B	B	B	B	75
富河小学校	倉庫	新					長寿命	B	B	A	B	B	84
万沢小学校	体育館	旧	済	済	2018	27.4	長寿命	B	A	B	B	B	82
万沢小学校	体育館	旧	済	済			長寿命	B	A	B	B	B	82
万沢小学校	体育館	旧	済	済			長寿命	B	A	B	B	B	82
万沢小学校	体育館	旧					長寿命	B	A	B	B	B	82
万沢小学校	校舎	新			2018	36.6	長寿命	B	B	C	B	B	62
南部中学校	柔剣道場	新					長寿命	B	B	C	B	B	62
南部中学校	校舎	新			2018	35.5	長寿命	A	B	B	B	B	77
南部中学校	校舎	新			2018	34.1	長寿命	C	B	B	B	B	72
南部中学校	校舎	新			2018	40.8	長寿命	A	B	A	B	B	87
南部中学校	校舎	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
南部中学校	校舎	新			2018	32.4	長寿命	B	B	B	B	B	75
南部中学校	駐輪場	新					長寿命	-	B	B	B	-	75
南部中学校	体育館	新					長寿命	B	B	A	B	B	84

9 改修周期

建物の機能や利用状況などの特性に応じて、適切な周期で修繕・改修を行うことにより、施設機能の維持向上を図り、建物本来の寿命である構造躯体の耐用年数まで使うこととする。その際は、屋根・屋上や外壁といった部分を定期的に修繕する一方で、設備性能や省エネ性能などの社会的要求の高まりに対応するため、中間年で機能向上を図る。



10 学校施設の整備及び維持管理に関する基本方針

学校施設の整備及び維持管理に関する基本方針は以下の5項目とする。

(1) まずは安全であること：安全・安心な施設環境の確保

非構造部材の安全対策、落下防止対策、事故防止対策、ライフラインの設備の安全対策等、防災性や安全性を確保する。

(2) 子供達が快適に過ごすこと：良好な教育環境の維持

子供達の学習、生活の場として快適に過ごすことのできる環境整備を行う。使い勝手のよい設備や省エネルギー部材の使用、温かみのある木材の活用等、快適性を重視した環境整備を進める。

(3) 計画的に進めること：財政負担を考慮した実効性のある計画

将来の財政負担（起債償還額、維持管理経費等）を考慮した実効性のある計画とする。

また、これからの学校施設の整備にあたっては、後述するように概ね80年のサイクルで改修・改築を図るため、今後の教育環境や社会状況に柔軟に対応できる施設整備や維持管理がしやすい環境を整える。さらにライフサイクルコストも踏まえた設備内容を検討する。

(4) 地域に溶け込むこと：地域活動の拠点としての活用、施設の複合化

空き教室の活用や他の公共施設との複合化など、地域のコミュニティの場や拠点となる施設の整備を行う。また、災害時の避難所としての機能を果たす施設として、他の公共施設等との併設も検討する。

(5) 統廃合の方向性を示すこと

南部町立小学校適正配置に関する具申書（以下「具申書」という）で示されているAグループ（万沢小学校、富河小学校）は、2021年度をめどに統廃合を行う。

また、具申書で示されているBグループの睦合小学校、栄小学校はともに児童数の減少が見込まれており、特に栄小学校では小規模化が進行している。

従って、具申書に示されている通り、2026年度をめどに関係者の理解を得ながら統廃合に向けた検討を進める。

さらに、少子高齢化の進展に伴う児童数の動向を見据えて、将来的には1校への統合を見据えた検討を行う。

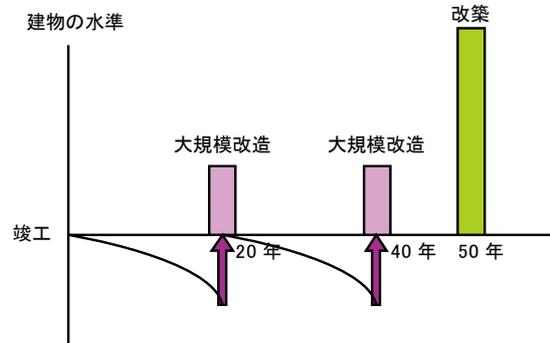
1.1 概算事業費及び整備スケジュール

今計画では、2パターンの事業費を検証した。また、長寿命化型では、「設計費」と「統廃合への考慮」を追加して事業費を算出した。

【パターン1】従来型の更新費の試算

★文科省の手引きに準拠した長寿命化試算ツールによる試算

- ・ 築20年・40年目に大規模改造を実施する
- ・ 築50年目に改築を実施する



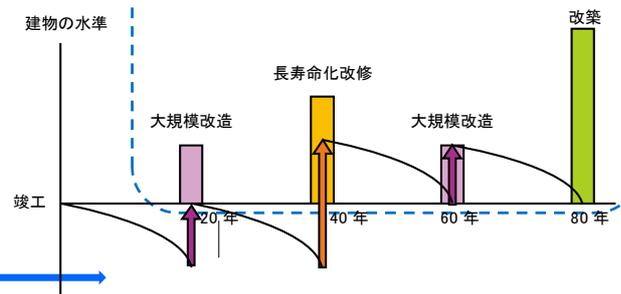
【パターン2】長寿命化型の更新費の試算

【パターン2のア】長寿命化型（平準化）＋設計費

★改築・改修時期を再検証し「事業費を平準化」＋「設計費を追加」する場合の試算

- ・ 建物の老朽状況や事業費の平準化を考慮し整備内容や時期を検討
- ・ 改修の前年度に設計費を追加する
- ・ 長寿命化改修、大規模改造の時期については、改築までの期間や平準化等を考慮して設定
- ・ 富河小学校と万沢小学校は平成32年度に統合する

- ・ 事業費を平準化
- ・ 設計費を追加



【パターン2のイ】長寿命化型（平準化）＋設計費＋統廃合

★「事業費を平準化」＋「設計費を追加」＋「統廃合を考慮」する場合の試算

パターン2のアに統廃合を加味する。

統廃合①：

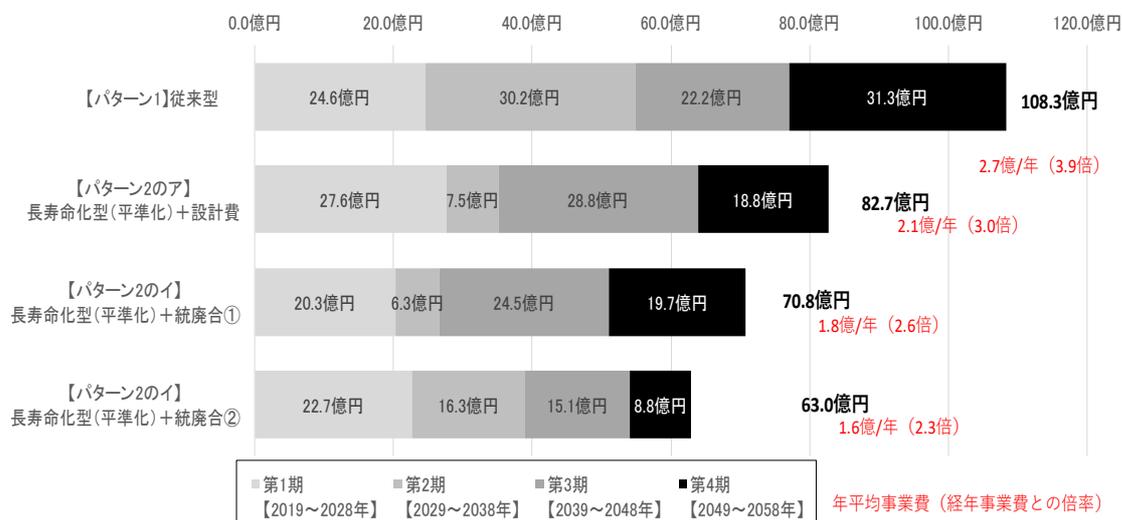
- ・ 2026年でBグループ（睦合小（校舎棟:築45年）と栄小（校舎棟:築43年）を統合。いずれかの小学校で長寿命化改修を実施。
- ・ 2058年で改築して1校へ（睦合小・富河小の校舎棟が概ね築80年の時期）

統廃合②：

- ・ 2026年でBグループ（睦合小（校舎棟:築45年）と栄小（校舎棟:築43年）を統合。いずれかの小学校で長寿命化改修を実施。
- ・ 2038年で改築して1校へ（睦合小・富河小の校舎棟が概ね築60年の時期）

12 長寿命化実施計画

学校施設の事業費について、「パターン1：従来型」と「パターン2：長寿命化型」を試算した。さらに、パターン2の長寿命型については、より実現的な事業費を算出するため、事業費の平準化し、その他の事業費（設計費）を追加した事業費試算を行うとともに、統廃合①と②の2パターンを試算した。学校施設の事業費について、「パターン1：従来型」と「パターン2：長寿命化型」を試算する。



そこで、長寿命化計画では以下を基本として進める。

①目標使用年数の前提

⇒ **パターン2（長寿命化型）での改修を進める**

- 事業費については、文部省の手引きに順次したパターン1（築50年目に改築、築20年目・40年目に大規模改造）が最も高く、40年間で108.3億円、2.7億円/年であり目標事業費（1億円/年）の2.7倍となる。第1期から改築工事への対応が必要となり財政が逼迫する可能性がある。
- 建物調査の結果、躯体部分や耐震面において早急に改修すべき建物はない状況にあることから、学校の更新は「50年以上の使用」を原則とし、長寿命化型での改修を進める。

②将来的な児童・生徒減少を見据えた計画へ

⇒ **統廃合を視野に入れて財政事情を考慮した計画とする必要がある。**

- 本町の児童・生徒数は減少を続けており、文部科学省が示す標準学級数（小学校は12学級以上18学級以下、中学校は9学級以上[※]）は平成30年度現在で達していない。
- また、児童数の将来推計によると、今後は1学級20人を割り込む状況で、20年後の平成47年（2035年）には、1クラスあたり児童数が10人以下となる推計である。
- 今後は児童数の減少を見据え、統廃合を視野に入れた長寿命化計画を進める必要がある。

※9学級～11学級は「同学年での複数教員配置や免許外指導の解消が可能な規模」として示されている（出展：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き 平成27年1月 文部科学省）

13 学校施設の適正規模、適正配置における配慮事項

本町では、既に中学校は統廃合を終えて1校に統合、小学校では2020年に富河小学校と万沢小学校が統合する予定であり、睦合小学校と栄小学校の統廃合を進めるとしている。

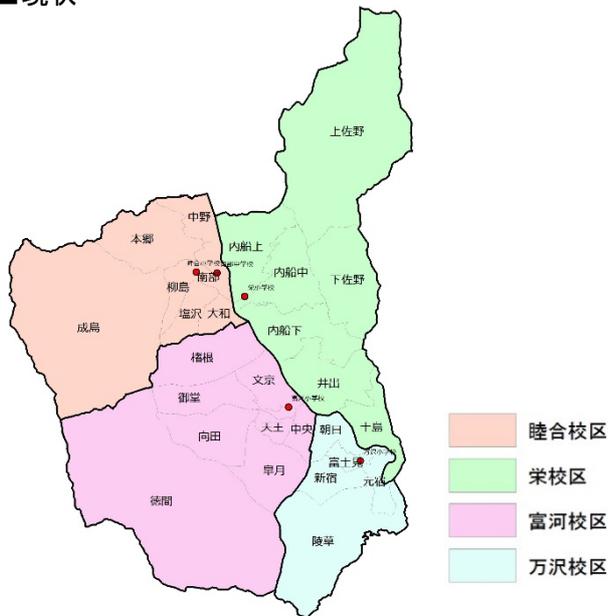
小規模校のメリットとしては、児童生徒が意見を発表できる機会の確保や、きめ細やかな指導が可能である一方で、学級数が少ないことによる学校運営上の課題が挙げられる。

今後は地域住民の方々と教育上の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、生徒の保護者、地域住民、生徒の声に丁寧に対応しながら、十分な理解や協力を得ながら検討を進めることが重要である。

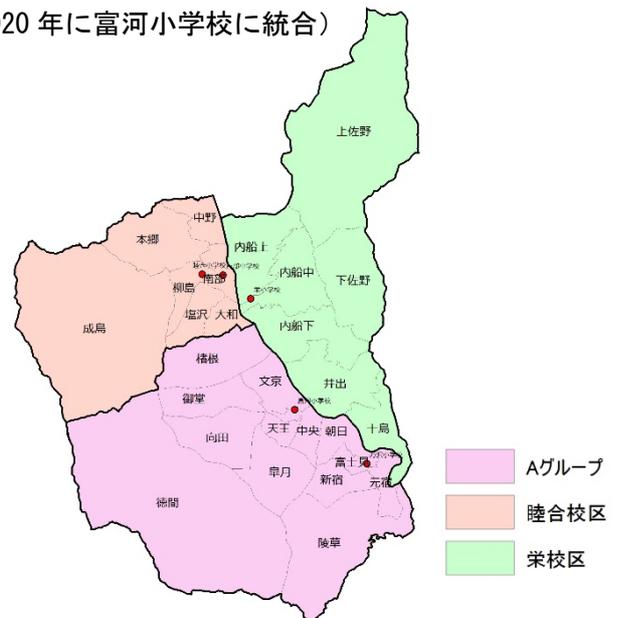
そこで、実際に適正規模・適正配置の検討を進めるには、生徒の保護者や地域住民の声を聞きながら、次年度以降、新たに学校適正配置について検討する機会を設け、地域住民の意見を聞きつつ詳細な検討を行い、本市の学校施設の適正規模・適正配置を検討する。

【小学校の統廃合パターン（案）】

■ 現状



■ Aグループ：万沢小学校×富河小学校を統合 (2020年に富河小学校に統合)



■ Bグループ：栄小学校×睦合小学校を統合 (2026年に統合予定)

